

1. 平成29年度学習状況調査の結果から

		2年	3年	4年	5年	6年
国語	強み	△ほぼ目標値並み	△全体的に目標値を上回る △話す力・聞く力 △書く力 △読む力	△昨年度を上回る △読む力	△昨年度を上回る △関心・意欲・態度 △話す力・聞く力 △書く力 △読む力	△昨年度並み △話す力・聞く力 △読む力
	弱み					
算数	強み		△全体的に目標値を上回る △数学的な考え方 △技能 △知識・理解	△ほぼ目標値並み △昨年度を上回る	△ほぼ目標値並み △昨年度を上回る	
	弱み	▼関心・意欲・態度 ▼数学的な考え方				▼技能
理科	強み					
	弱み			▼全体的に低調 ▼関心・意欲・態度 ▼観察・実験の技能	▼全体的に低調 ▼関心・意欲・態度 ▼科学的な思考・表現	▼全体的に低調 ▼知識・理解
社会	強み			△全体的に目標値を上回る	△ほぼ目標値並み	
	弱み					▼全体的に目標値を下回る ▼知識・理解
意識調査	質問紙	△「家族のささえ」「友達のささえ」が強みである。 ▼「成功体験と自信」「学習習慣」「対人ストレス」などが課題である。				
	回答	本や新聞を読んでいる				
		—	—	肯定率 51.7	肯定率 57.8	肯定率 63.3
		いつも、コツコツ勉強している				
		—	—	肯定率 64.1	肯定率 53.2	肯定率 65.3
		どんなに努力しても自分の頭のよさは大きく変えることができない				
		—	—	肯定率 47.2	肯定率 21.1	肯定率 22.4
勉強よりも友達を優先することがよくある						
—	—	肯定率 57.3	肯定率 71.6	肯定率 70.4		
勉強よりもテレビを優先することがよくある						
—	—	肯定率 41.5	肯定率 52.3	肯定率 43.8		
iチェック	△先生のささえ △学級の規範意識 ▼学習習慣	△家族のささえ △友達のささえ △先生のささえ △学級の規範意識 △生活・学習習慣	△先生のささえ △充実感と向上心 △生活習慣 ▼学級の規範意識 ▼学習習慣	△先生のささえ △他者からの評価 △対人ストレス ▼学習習慣	△家族のささえ △先生のささえ △問題解決能力 △生活習慣 ▼友達のささえ	

2. 調査結果のまとめと分析

<p>①28年度に比べ、目標値・全国平均正答率との比較で改善が見られた学年・教科は以下のとおりであった。 <b>2年なし 3年国・算 4年国・社 5年国・社・算 6年国・社・算・理</b> 学校全体の国語の力が改善した。ここ数年取り組んでいる辞書引き学習を含め、教職員の努力の成果であると思われる。また、中・高学年の算数は少人数授業によるのきめ細かい指導の下、着実に学力が定着しているものの、学年によるバラツキが見られる。</p> <p>②学年による学力の差に開きが見られる。また、二極化が疑われる教科・学年が見られる。</p> <p>③国語では全体として、知識・理解・技能を中心に着実に学力が身に付いている。</p> <p>④算数は学校全体としては目標値並みに上がってきているが、学年によるバラツキが見られる。</p> <p>⑤理科・社会科はすべての学年で目標値に届かない。</p> <p>⑥意識調査から家族や友達のささえを受けていると感じる児童が多い。</p> <p>⑦読書の量がやや少ない</p> <p>⑧家庭学習力の充実が不可欠であるが、意識調査ではなお低い。</p> <p>⑨テレビ、ゲームの視聴時間も長い。家庭と連携を図る必要がある。</p>	<p>①着実に話を聞くことができ、自己肯定感の高い児童が多い。日頃の授業が充実しつつあると考えられる。辞書引き学習を継続するとともに、今後は興味・関心や、さらに思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫が必要である。</p> <p>②基礎学力の定着を図るため、学ぶ姿勢の育成や朝学習・家庭学習の意図的計画的な指導を行っていく。</p> <p>③全教科を通して表現力に着目し、自分の思いや考えを着実に文章に表すことや文章を丁寧に読む活動の時間を確保する。また、グループによる学習や対話型授業など形態を工夫し自らの意見や考えをもたせ、理解を深めさせることが重要である。</p> <p>④少人数指導で個に応じた指導の充実を図るとともに、問題解決型の授業を意図的に行い、筋道を立てて考える力の育成を図る。</p> <p>⑤東京未来大学共同研究で培った意欲を高める授業を進めていく。</p> <p>⑥引き続き、ICT教育機器を活用し、子供たちが興味関心を引く授業を行う。</p> <p>⑦一クラスの人数が多く、効率的な指導を目指す結果として教師主導型の授業が多い実態から、今後は前述した問題解決型の授業や体験学習的な授業を意図的に取り入れていく必要がある。</p> <p>⑧若手の教員が多く、月1回若手教員の研修・研究の機会を設定する。特にICT教育機器の活用で「分かる授業」の構築を目指していく。</p>
---	---

3. 分析

<p>①基礎学力のさらなる向上を目指す。特に基礎学力を図るために授業と家庭学習の連携を計画的に実施し、日常の教科学習での補充的な取組を行い、D・E層の児童数を限りなく0に向け減らしていく。</p> <p>②全教科を通して活用力のうちの「表現力」に着目し、自分の思いや考えを確実に文章に表すことや、文章を丁寧に読んで考えさせる活動の時間を確保するなど、授業の質的な向上を目指していく。</p> <p>③児童の知的好奇心を引き出し、一人一人に課題をもたせ、問題解決型で達成感のある授業の改善に努めていく。</p> <p>④東京未来大学との共同研究で進めてきた意欲的な学習態度に重点を置き、自分の考えや感想を文章に表したり、カードやワークシートの記入の仕方、自己の考えを分かりやすく相手に伝える授業を構築する。</p> <p>⑤朝学習での読書活動や日常の読み聞かせ活動の他、一人一人の読書量を増やし、読書や辞書引き学習の励行に努める。</p> <p>⑥家庭と連携し、自ら学ぶ力の育成のために家庭での学習習慣の確立を図る。</p> <p>⑦理科・社会科については、前年度より向上しつつも、なお、目標値に届いていない現状を踏まえ、一層の実験・観察の充実や見学して学ぶ一連のプロセスの見直しを図り、児童の考えがまとまるよう授業の質の向上に努めていく。</p>
---

4. 平成30年度 墨田区学習状況調査の目標  
**すべての学年で国語科・算数科は本校平均正答率を目標値以上にする。同様に、理科・社会科は目標値-2ポイント以上にする。**

5. 目標を達成するための具体的な取組

(1) 日常の指導の充実のための取組
①授業展開の改善点を全校体制で検討し、指導に当たる。 ア、校内研究を今まで以上に充実させ、研究成果が日頃の授業実践に生きるよう「研究の日常化」を実現させる。 イ、低・中学年には少人数指導や個別指導を通して個に応じた指導の充実を図り、基礎学力の充実を目指す。
②学習形態の多様化を図る。 ア、問題解決学習や体験学習を多く取り入れ、児童が自ら課題を設定し、課題解決を通して自ら考え判断できる能力の育成に努める。 イ、各教科の学習において、学習の成果を発表する機会を設定し、楽しさとやりがいを感じながら学習を進められる環境作りを努める。 ウ、全教科を通して「書くこと」に重点を置き、自分の考えや感想を文章に表したり、ノートやワークシートの記入の仕方を継続的に指導する。
③全校体制で読書指導の充実を図る。 ア、学校図書館を整備し、週二日勤務の司書を活用し、読書指導を推進する。 イ、朝学習での読書活動の定着を図る。 ウ、地域人材を活用した読み聞かせ活動の充実と読書習慣の定着を図る。
(2) 自主的な学習の推進のための取組
①学習の習慣化を図る。 ア、朝学習の時間を確保、活用し、基礎的基本的な事項の意図的・計画的な指導の徹底を図る。 イ、自ら計画し実行できるよう家庭学習に対する指導の徹底を図り、その習慣化を図る。 ウ、放課後補習教室・土曜授業のさらなる充実を図る。

6. 設定した目標の達成度を測るための指標

(1) 日常指導の充実のための取組
①単元ごとの評価テストで80%の児童が期待点以上がとれるよう日常の指導の充実を図る。
②すべての児童の読書量は年20冊以上を目指す。
③校内研究・学習意欲を高めるための指導に基づく授業研究を推進し、全員が年1回は研究授業を行う。
(2) 学力向上のための取組
①学校関係者評価で「学校に楽しく通学している」の項目で95%が肯定するように魅力的な学校作りを推進する。
②後期児童アンケートを実施(12月)し、「授業が分かった」「授業が楽しい」といった授業満足度を調査し、80%以上を肯定的な回答にする。

